

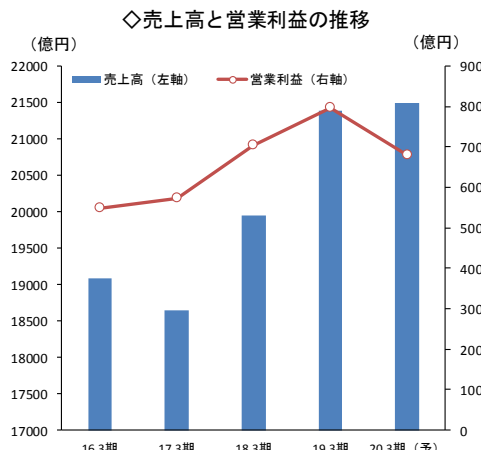
# 企業ニュース 日本通運

(東証1部：9062) <https://www.nittsu.co.jp/>

作成者：高見澤晶子

## 抜本的な社員制度改革に着手

国際複合物流を強みとする、総合物流の大手。19.3期のセグメント別売上高構成比は、ロジスティクス76%（日本58%、米州4%、欧州5%、東アジア5%、南アジア・オセアニア4%）、警備輸送4%、重量品建設2%、物流サポート18%。2019年2月に公表した2019～2023年度の中期経営計画では、数値目標として売上高2兆4,000億円、営業利益1,000億円を掲げる。国内は、料金改定や事業ポートフォリオの見直しなどによる収益性の向上に取り組む。また、M&Aの活用により海外での飛躍的な成長を目指す。一方で、働き方改革に対応して社員制度の抜本的な改革を実施するため、短期的には経費が増加する計画となっている。



(出所) 日本通運資料よりCAM作成

## 第1四半期は一過性費用により営業減益

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が5,198億円、前年同期比1%増、営業利益が106億円、同38%減。会社はほぼ計画線で推移しているとコメントした。売上高は、国内物流の不振を海外物流と物流サポートでカバーし、前年同期並みとなった。営業利益は、事業活動による利益が堅調だった一方、賞与支給対象期間の変更に伴う一過性の費用や、社員制度改革費用などの増加により大幅減益となった。

20.3期の通期会社計画は、売上高が2兆1,500億円、前期比1%増、営業利益が680億円、同15%減。前期の自然災害影響の反動増や料金改定の効果が期待されるものの、社員制度改革の関連費用などにより減益の計画。第1四半期に発生した一過性費用はなくなるため、通期での減益幅は縮小するとみられる。8月1日、トラック貸切届出運賃の値上げを実施した。この値上げは通期計画には織り込まれておらず、現状で取り組んでいる料金改定効果の後押しとして、中長期での業績への貢献が期待される。

## [株価動向・投資判断]

一時的な費用増による利益率の悪化が嫌気され株価は低調に推移しているが、中期経営計画に沿った事業活動は堅調に推移しており、今後は利益率の改善が見込まれよう。

<9062 日通 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	1,995,317 ( 7)	70,269 ( 22)	74,395 ( 17)	6,534 ( ▲ 82)	68.1	66.00
19.3	2,138,501 ( 7)	79,598 ( 13)	85,802 ( 15)	49,330 ( 655)	515.1	155.00
20.3 予	2,150,000 ( 1)	68,000 ( ▲ 15)	73,000 ( ▲ 15)	45,000 ( ▲ 9)	475.7	155.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2019/9/30)	5,510 円
年初来高値 (高値日)	7,050 円 (19/2/1)
同 安値 (安値日)	5,010 円 (19/8/6)
予想 P E R (20.3 予)	11.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,735.3 円
P B R	0.96 倍
予想配当利回り	2.81 %
(1株当たり配当金年155.00円)	
R O E (19.3)	9.2 %
発行済み株式数	9,800 万株